

捲土重来

今重要なことは、今回の代

表選に際して、想像を絶する情報工作が展開されたことである。本ブログでも指摘してきたが、その工作活動はまさに狂気のなせる業であった。小沢一郎氏の「政治とカネ」問題について、ほとんど意味不明な誹謗中傷が展開された。そのうえで、世論は圧倒的に菅直人氏支持だとの虚偽の情報が土石流のように流布され

たのである。

世論調詐が示していたような小沢氏17%、菅氏78%などという姿は、どこにも存在しなかったことは明らかだ。マスゴミが虚偽の世論調詐結果を流布していたことが改めて明らかになったと言つてよいだろう。

名演説の意味をじっくりと体感することになるだろう。

民主党の支持者では小沢一郎氏支持者が菅直人氏支持者を圧倒的に上回っている。

菅民主党が、今後、官僚利権を温存したままでの消費税増税に突き進むことは明らかである。その際には、同じ政策を目標む自民党と手を組むことが予想される。いま、菅氏を支持する人は、その時に泣き言を言えないことを覚えておくべきだ。

費税増税が待ち受ける。

また、郵政改革法案の処理で、菅政権は市場原理主義・対米隷属政権の本性的牙を見せることになるだろう。予想以上に早い段階で大規模な政界再編が動き出す可能性も高い。

必ず菅政権は行き詰まることになる。その時に主権者国民勢力は悪徳ペンタゴンから政治の実権を奪還しなければならぬ。小沢一郎氏を支え、必ず捲土重来を実現しなければならない。

小泉政権が樹立した時も、国民は悪徳ペンタゴン手先のマスゴミの情報誘導に載せられてしまった。今回は当時と比べて、真実を洞察した人々が圧倒的に増加したが、ぎりぎりのところで惜敗を喫してしまった。

すべての日本国民が目覚まされなければならない。すべての日本国民が目覚ますとき、日本はようやく悪徳ペンタゴンの呪縛から解放されるのである。
―植草一秀「知らせざる真実」より

中国のパンクダンス

中国人の人達の国に対する味方の根底には「中国は、本当は強国であるべきなのだ」という強い願望がある。4千年以上の歴史を誇り、世界三大発明（印刷・火薬・方位磁針）の高度の技術や優れた文化文明を生み出し、世界の中心として君臨した栄光に誇りを持っています。2百年前までは世界一の経済大国でした。

当時の中国は、自分よりはるかに経済規模の小さな国々に、砲艦によって無理やり開国を迫られ、領土を乗っ取られ続けられたのです。中国人の思いの中に、「いつかは米を追い抜いて、世界一の国になるのは当たり前なのだ」の思い募らせています。

中国TVのスポークスマン（女性）を見てても感じられます。強い国にはコンプレックスを持つが、弱い国は見下しやすい国？。

(有)西川経営オフィスサービス

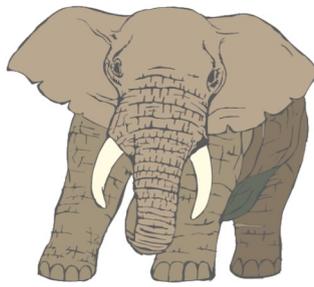
中村会計

事務所便り

2010年9月15日 (水) NO 146

地域から明るい未来を作ろう

これだけの情報工作が展開されてなお、国会議員票で互角、地方議員、党員・サポーター票で4:6の結果に終わったということは、実質的には小沢氏が勝利したと考えてよいと思われる。投票前の小沢氏と菅氏の演説でも、小沢氏は完勝を収めた。



今後、日本経済は円高、株値下落、景気悪化に苦しむことになる。そのあとには、消

を指す主権者国民勢力は、これらの方針にことごとく対立する路線を示す菅直人政権と厳しく対峙してゆかねばならない。

- ① 対米隷属を打破し、
- ② 官僚利権を根絶し、
- ③ 政治と大企業の癒着を解消し、
- ④ セーフティネットを重視し、
- ⑤ 取り調べ過程の全面可視化